


# Entertainment Sonne

< [読書]斎藤孝／梅田望夫『私塾の...』 | [読書]筒井康隆『美藝公』 2—子... >

2008-07-22 編集

## 筒井康隆『美藝公』1—空気を読める国民たち

読書



**美藝公**  
 作者：筒井康隆, 横尾忠則  
 出版社/メーカー：ミリオン出版  
 発売日：1995/11  
 メディア：単行本  
 クリック：5回  
 この商品を含むブログ (9件) を見る

名作。というわけだか絶版で、Amazonでもプレミア。

こういう作品が絶版になるというのは、日本が終わってる証拠。それは『美藝公』が名作だからというだけではなく、現代への辛辣な批判を含んだ作品になっているから。

僕の地元、名古屋が全国に誇る劇団「少年王者館」の天野天街が去年この『美藝公』を二人芝居で戯曲化したらしい。見たかった！

それはさておき、もしも、戦後日本が経済立国としてではなく「映画産業立国」として成功していたら？ という設定の話。筒井康隆の巧みなのは、この「設定」を登場人間の性格にまで反映させているところだ。

『美藝公』における映画産業立国日本では、芸術こそが至上の価値を持つ。政治家が「藝術大学を落第し」て、「しかたなく国立大学の法学部に入った」と告白するような（P47、以下ページ数はすべて文庫版）社会だと言えはわかりやすいだろうか。とにかくみんな映画を観る。おそらく小説を読んだり、絵画を鑑賞したりすることも現実の日本以上に盛んに行われているだろう。芸術に多く触れているのでみんな芸術的な感性がすこぶる高く、それゆえ、会話や行動は常に「粋」であって、機知に富み、ユーモアに溢れている。とにかく登場人物が皆、気が利いているのだ。「空気が読める」と言っても良い。

主人公の一流脚本家里井は、人気女優の町香代子と付き合っている。お互い多忙であるが故に、滅多に二人きりになることはない。ある日、久しぶりに香代子は里井の家に赴く。しかし、その日は大木という若き小説家も招かれており、また屋敷には女中のお隈さんがいるのである。

ここで、お隈さんは「叔母の具合が悪くて」と外泊の旨を告げ、大木も「親戚が待っている」と言って早々に退席する。かくして里井と香代子は二人きりの夜を過ごすことができたのである。

ソファで二人の時間を過ごしながら、里井はお隈さんの思いやりに気づく。そして香代子も、

「みんな、やさしいと思いません」（P36）

と里井に告げる。「みんな」と表現しているところから、おそらくは大木のことも含められているのだろう。お隈さんと大木の「気の利きよう」と、里井と香代子の「勤の良さ」。これは、映画産業立国ならではの「国民性」なのではないか。

また、里井と美藝公（総理大臣より偉い、映画スターの頂点）との会話も、非常に気が利いている。

「むろんだ。お供しよう。早い方がいいな」  
 「よし。行く日を早く決めて、いずれ電話しよう。ところで君の話というのはなんだい」  
 「いや。もうその話はいいんだ」おれはかぶりを振った。「する必要がなくなった」（P43）

里井と美藝公はお互いに相談事を持ちかけていたのだが、奇しくも同じ問題を共有していたがゆえに、美藝公の相談を聞いた後に里井は相談する理由がなくなったのである。本文には書かれていないが、美藝公はこの里井のせりふを聞いて、ニヤリと笑ったに違いない。

また、閣議中に関係がギャグを言って大臣全員が大笑いする（P46）など、現実の日本のように「ユーモアをタバー視する」風潮は一切ないようである（閣議は公開されてないので、わからないけど）。

また、こんな描写もある。

ここでは皆が自らの役柄を心得ている、と、おれは思った。その役柄以上に出しゃばることなく、それぞれの役柄の中でその役柄を楽しみながらみごとにこなし、同時に他人を楽しませている。しかしそれは、たいへん難しいことでもあるのだ。（P89）

これは「最高の人士ばかりだからであろう」と里井は言っているが、映画産業立国の日本では、少なくとも経済立国の日本よりは、それぞれの役柄を心得ている人間が多いのでは、と僕は思う。ゴシップ記事に関しても、

ああいうものこそが、微笑ましいゴシップというやつで、いいゴシップ記事の見本だ。新聞記者も雑誌記者も、ぼくたちのこの恋愛を祝福してくれている。あけすけに書いて映画の背後の神秘性や夢を壊すようなことはしないよ。そんなことをするのは映画産業の衰退につながる。（P38）

と、「空気を読んだ」報道の在り方を里井は絶賛している。

「空気を読む」といえば、里井家の使いたちはその点でいえば、完璧である。

お隈さんはしばらくおれの顔をじっと見つめてから、ゆっくりと頷いた。「そうおっしゃるだろうと思っておりました」  
 「磯村に車を出してもらってくれ。徹夜でとぼすことになるが」  
 「それでしたら」と、お隈さんは言った。「もう整備をはじめております。それからコック長も、お持ちになるお夜食の準備をいたしております。あと五分お待ちください」  
 言うなり身をひるがえし、彼女も台所の方へ駆け去った。三人とも主人の気性を知り抜いているのだ。（P99）

筒井は、明らかに意識して彼らの「気の利きよう」を描いている。そうとしか思えない。では、なぜ筒井は「気の利いた」人々を描くのか？ それは、この国が「映画産業立国」だから、という事情を踏まえているのである。

僕は高校生のころずっと、本を読む人と読まない人の違いは何か？ ということを考えていた。「読める人と読めない」と言ってもいいかも知れない。理系クラスの単細胞（差別的表現）がキョへへと騒いでいるのを注意深く観察して僕は一つの答えを出した。彼らは「文脈」というものを知らないのだ。

差別的な、偏見たっぷり意見であることは承知しているが、あえて書く。

本を読まない、映画も観ない、物語を知らない人たちは、文脈を読む力も、文脈を作る力もないのである。小説にする映画にする「伏線」というのが必ずあって、「伏線」に気づくには、「過去に描写された内容を覚えている」ことと、「過去に描写された内容といま描写されている内容とを関連づけて考えることができる」ということが前提となる。

「文脈」にはそういった「伏線」が多数張り巡らされていて、それらに気づくことができるのが、「文脈を読む力」ということになるだろうと思う。

会話における「文脈」も同じ。「過去に話していた内容を覚えている」ことと、「過去に話していた内容といま話している内容とを関連づけて考えることができる」ということが前提となる。

「公明党のキャッチコピーってなんだっけー」  
 「“公明党がやる”だっけ？」  
 「そうそう」  
 「何をやるんだ、って話だよね」  
 「崎さんの、あの拳がいいよね拳が」  
 （一〇分後）  
 「あーだりい、今週掃除じゃん」  
 「文句言わずにやれよ」  
 「あーい、今日ゴミ捨て誰がやる？」  
 「公明党がやる」

たとえばひどいけど、まゝこういうのが「文脈をつくる」だと思うよな。過去に話していた内容を、「伏線」に変えてしまう作業。これが自然にできる人っていうのは、「本が読める」あるいは「本が書ける」人だと思うよな。

最近テレビで、一分間で漫才やコントをやる「爆笑レッドカーペット」とか、「一分間の深い話」とかがやってるのを目にする。売れる芸人も、一発芸・瞬間芸みたいなものばかり。要は、「文脈を読む」ことを必要としないものが売れていくわけです。活字離れっていうのと同時に「文脈離れ」っていうのも進行していて、その結果の一部がこういう、「一発芸・瞬間芸の隆盛」なんだろう。今に始まったこっちゃないかもしらんが、それにしても、昨今は目に付きすぎる。

で、本も読まず映画もろくに観ない、文脈を知らない人たちがどういう会話をするのかと思ったら、

「ぐ〜」  
 「そんなのかんけいねい」  
 「さぁんげんちゃや！」  
 「死刑！」  
 「ちよんわちよんわ」

みたいな感じになるのである。

筒井の描く『美藝公』の世界では、映画を観ない人なんか存在しない。それどころかたぶん、浴びるように観ている。だから彼ら自身もまるで映画の中の登場人物のように、文脈を読み、空気を読んだ、粋な行動ができるのである。

ちなみに映画産業立国のテレビは、完全に無力である。（P98）

さて、

どーでもいいことを長く書いてしまったが、実はP135からが本当の『美藝公』であって、それまでは「映画産業立国日本は、こんなに素晴らしい国なのです」ということに説得力を持たせるための壮大な前振りなのだ。

あまりに長くなったので、記事を改める。

→美藝公2

Permalink | コメント (0) | トラックバック (0) | 21:03



imitsu 即日対応 完全無料  
 ホームページ制作会社 一括見積もり  
 紹介実績20,000件 利用満足度98%  
 カンタン30秒で 今すぐ見積もり

コメントを書く

ozakit メール(非公開) URL

投稿

トラックバック - http://d.hatena.ne.jp/ozakit/20080722/1216728186

トラックバックを削除する スパムトラックバックとして報告する

少年Aの散歩 / Ecology of Everyday Life - 筒井康隆『美藝公』 3—



あらゆる情報収集がこれ一つで / アプリをダウンロード  
 1000万を超えるサイトの人気記事をまとめてチェック  
 iOS / Android対応アプリを無料でダウンロード

リンク元

- 56 https://www.google.co.jp/
- 55 https://www.google.co.jp/medamochio/rss
- 14 http://twitter.com/mochioumeda
- 12 http://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&src=s&source=web&cd=12&ved=0CEM0FjAB0Ao&url=http://d.hatena.ne.jp/ozakit/20080722/1216739498&ei=P1JJsL6\_THIzi8A8rucK&Dw&usq=AFQjCNEYG90Z7Sncf1YXo0hetSJ-olf&sig=2g8hepDITx-RR8hOB9S-rDNQ
- 10 http://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&src=s&source=web&cd=3&ved=0CEM0FjAD&url=http://d.hatena.ne.jp/ozakit/20080722/1216714398&ei=DUb8U4\_LlCanlOWVv4GABA&usq=AFQjCNEYG90Z7Sncf1YXo0hetSJ-olf&sig=2g8hepDITx-RR8hOB9S-rDNQ
- 10 https://www.google.co.jp/
- 9 http://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&src=s&fr=1&source=web&cd=21&ved=0CCg0FjAA0B0&url=http://d.hatena.ne.jp/ozakit/20080722/1216728186&ei=HtBXUof0CMWrk&XMu4Aw&usq=AFQjCNEYG90Z7Sncf1YXo0hetSJ-olf&sig=2g8hepDITx-RR8hOB9S-rDNQ
- 7 http://d.hatena.ne.jp/umedamochio/
- 7 http://d.hatena.ne.jp/keyword/筒井康隆
- 7 http://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&src=s&source=web&cd=4&ved=0CEE0FjAD&url=http://d.hatena.ne.jp/ozakit/20080722/1216714398&ei=DUb8U4\_LlCanlOWVv4GABA&usq=AFQjCNEYG90Z7Sncf1YXo0hetSJ-olf&sig=2g8hepDITx-RR8hOB9S-rDNQ

リンク元をすべて見る

< [読書]斎藤孝／梅田望夫『私塾の...』 | [読書]筒井康隆『美藝公』 2—子... >

### プロフィール



ozakit  
タイガーマイクワファンが大好きです。

### 最近タイトル

- 2013-06-11
- 2013-06-10
- 2013-06-09
- 2013-06-08
- おかーさんの新作
- 途中下車
- 2013-06-08
- [読書]教養としてのロースクール小説 浅羽通明
- [読書]悪文 岩瀬悦太郎編著
- ジャッキーさんがインターネットの世界に帰ってきたよ。

### カテゴリー

- 漫画
- 音楽
- 日記
- 将棋
- アニメ
- うさぎ！
- 大学受験国語
- 自転車
- ドラえもん
- ネット
- 映画
- 読書
- 少年Aの散歩
- ウーチャカ大放送
- 掌の小説
- 草の漫画
- 茄子と檸檬

### カレンダー

▼ 移動

### カレンダー

<<	2008/07	>>
	1	2 3 4 5
6	7 8 9 10 11 12	
13	14 15 16 17 18 19	
20	21 22 23 24 25 26	
27	28 29 30 31	

### 最近のコメント

- 2008-04-22 さすらう老人
- 2009-07-28 ozakit
- 2009-07-28 ぎょは
- あ！！！！
- 2008-11-11 ozakit
- 2008-11-11 OKDC

### 最近のトラックバック

- 2008-11-09 Drôle de sujet
- すべて日本人がいま注目する本

### 最近言及したキーワード

- GDP
- グローバリズム
- パターナリズム
- ブルジョア
- マルクス
- 芥川龍之介
- 皇空戦艦
- 小次郎二
- 革新
- 生活維持費
- 青春18きっぷ
- 石原千秋

## 浅羽通明

- 大須賀音
- 谷崎潤一郎
- 名鉄
- 鈴木先生
- 巖石
- 藤野

### ozakitのブックマーク

- 『新潮』2009.2 読切作品 - 文学は面白いのか（仮題）
- 早稲田大学 ドラえもん研究会
- 神童K・B・Y・Sが一体出た！
- パンツは布ですのガイドライン
- 中洲産業大学 タモリ教授
- やめる講座

### ページビュー

87846

### 日記の検索

検索

- 詳細
- 一覧